

2017年9月4日
環境社会配慮助言委員会委員長 村山 武彦
担当ワーキンググループ主査 松行 美帆子

フィリピン国メガマニラ圏地下鉄事業
(協力準備調査(有償))
ドラフトファイナルレポートに対する助言

助言案検討の経緯

ワーキンググループ会合

- ・日時：2017年9月4日(月) 13:58~16:43
- ・場所：JICA 本部(2階 211 会議室)
- ・ワーキンググループ委員：殖田委員、作本委員、長谷川委員、松行委員
- ・議題：フィリピン国メガマニラ圏地下鉄事業(協力準備調査(有償))に係るドラフトファイナルレポート案についての助言案作成
- ・配布資料：1) スコーピング段階助言対応表
2) ドラフトファイナルレポート
3) Environmental Impact Statement (Draft)
4) Resettlement Action Plan (Draft)

- ・適用ガイドライン：国際協力機構環境社会配慮ガイドライン(2010年4月)

全体会合(第83回委員会)

- ・日時：2017年10月13日(金) 14:30~17:21
- ・場所：JICA 本部(113 会議室)

上記の会合にて助言を確定した。

助言

全体事項

1. ルート線形 3 つの option ごとの渋滞緩和効果、コスト比較結果を FR に記載すること。
2. Mindanao Avenue-Quirino Highway 駅のみが高架と地下について検討された理由を FR に記載すること。
3. 「フィ」国側が、線形選定にあたり、オプション 3 を選んだ際の判断基準を、分かり易く FR に記載すること。

環境配慮

4. 本事業で影響を受ける絶滅危惧種の移植や代替植林について、NGO や植物専門家等の協力を得て、正確なデータ及び維持管理の方法を確認し、FR に記載すること。
5. 運行に伴う低周波発生対策として、防振まくら木を採用する等の方法を検討し、FR に記載すること。
6. 車両基地の代替案検討において、結果を左右する自然環境配慮点はなかったこと、社会調査結果、洪水の影響について FR に追記すること。

社会配慮

7. 労働環境については、供用時の地下鉄職員も対象とする予測評価結果を FR に記載すること。
8. 自然環境及び社会環境を対象とするモニタリングフォームも FR で提案し、可能な限り定量的な目標水準を設定し FR に記載すること。
9. 住民の移転先について、現在の職場への通勤可能性、職の変更が必要な場合は、移転地での新規の職の可能性、ビジネスセクターはビジネスの再開の可能性などを考慮した上で、場所の選定を行い、FR と RAP に記載すること。
10. 住民移転において、可能な限り Presidential Committee of Urban Poor 等による既存の調査報告書を入手し、教訓を反映し、FR 及び RAP に記載すること。
11. 公共交通指向型開発（TOD）の一環として駅ビル、エキナカ開発を実施する際に、駅周辺の既存商店と共存し、駅周辺が魅力的な空間になるよう、今後の詳細設計や建設のフェーズにおいても関係者とも十分協議を重ねるよう、実施機関に提言すること。

以 上